

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「イオン新型店、子育て世帯に的 有機野菜・遊び場充実」
  - 2) 「Amazon、プライム会員向け新サービス“Prime Now”開始」
  - 3) 「米で遺伝子組み換えサケ認可 食用動物で初」
- 

1) 「イオン新型店、子育て世帯に的 有機野菜・遊び場充実」

イオン傘下のイオンリテールは21日、GMSの新型店を東京都板橋区に開業する。30-40代の子育て世帯に照準を絞り、有機農法の野菜や子供の遊び場などを充実させる。不振が続くGMSについては、イトーヨーカ堂などが大量閉鎖を決めている。イオンは地域の需要に合わせた店づくりを進めて立て直しを目指す。

エイチ・ツー・オーリテイリング傘下のイズミヤの板橋店だった店舗を譲り受け、「イオンスタイル板橋前野町店」として改装した。売り場は地下1階から地上3階までで、面積は約1万1300平方メートル。カフェなど20の専門店も入る。

食品売り場では安全・安心への対応を強化する。有機栽培した農産物を約30品目、小麦を使わないしょうゆといったアレルギー対応商品も約33品目そろえる。入り口そばのフードコートは約350席と広めにして、子連れ客がくつろぎやすくした。

衣料品は肌着や子供服が中心で、婦人・紳士服は扱わない。同社として初めて電動アシスト自転車の専門店を設けたほか、大型ボールなどで遊べるキッズスペース、授乳やおむつ替えができる区認定の「赤ちゃんの駅」も設置した。イオンは今後も、店舗ごとに明確なコンセプトを設定して同様の店舗を出していく方針だ。

このような新店の情報を見ると、改めてスーパーマーケット業界に面白さを感じる。日本のスーパーの歴史は半世紀以上になるが、永遠にゴールがなくこれからも「新業態」が生まれ続けると思うと楽しみだ。超高齢化社会対策の店づくりはもちろん必要だが、消費を牽引していく世代が利用しやすい・利用したくなる店づくりというのも不可欠だと思う。各社の取り組みや試みに注目したい。

---

2) 「Amazon、プライム会員向け新サービス“Prime Now”開始」

Amazon.co.jpは、Amazonプライム会員向けの新サービスとして、アプリをダウンロードしたユーザーに1時間以内に商品を配送する「Prime Now」を19日より開始した。このサービスは2014年12月にニューヨークで開始され、現在ではアメリカ・イギリス・イタリアの23都市で提供している。

今回のサービスでは、午前6時から深夜1時までの配送時間を選択できる「1時間以内配送」（税込890円）と、午前6時から深夜0時の間、2時間単位の配達時間を選べる「2時間便」（無料）が用意されている。深夜0時から1時までの対応は、日本が初となる。注文は1回2500円以上で商品は1点からでも対応する。

なお、「1時間以内配送」で時間を過ぎてしまった場合には配送料の返金で対応するとのこと。

まずは 東京・世田谷区の尾山台に設置された「Prime Now」専用の施設を拠点に、世田谷区・目黒区・大田区・品川区・港区・杉並区・新宿区（一部除く）8区を対象に展開を行う。

同施設での取り扱い商品数は18000点。市川にある配送センターの「1/60の規模」で、都心部への迅速な配送に特化した倉庫となっているという。

今後、2015年12月には神奈川県の一部エリアに対応し、順次エリアを拡大。専用のバッグや配達用車両を用意するなど認知を拡大していきたい意向で、特に日用品の購入に関して新たな選択肢の一つとなりそうだ。

このサービスは需要があるだろう。まだ有料会員のみ・特定地域だけのサービスではあるがこれから広がっていくと思われる。ただ、この速さに慣れてしまうと今後利用者はどんなサービスで満足するのだろうか…。配達員にとっては時間に追われる仕事なので、配送時の事故などは起こらないことを願うばかりだ。

---

### 3) 「米で遺伝子組み換えサケ認可 食用動物で初」

米食品医薬品局（FDA）は23日までに、遺伝子組み換えで通常の2倍のスピードで成長するよう改良されたサケについて、食品としての使用を認可した。遺伝子組み換え食品が植物以外で認められたのは初めて。養殖施設の建設を経て数年以内に出荷が可能になる見通したが、流通業者からは取り扱いに慎重な声も出ている。

FDAはこのサケについて、「食品としての安全性でも栄養面でも通常のサケと同様だ」と判断した。組み替えられた遺伝子は数世代にわたって安定的で、厳重に隔離された施設で養殖することで、遺伝子を組み換えたサケが天然のサケと交配する可能性も低いとしている。開発した米アクア・バウンティ社は成長の早いサケを養殖することで、天然のサケの乱獲を防ぐことができるとしてきた。アクア社は今年19日の声明で、「健康的で栄養価の高い食品を海や海洋生物にダメージを与えない方法で消費者に届けることができる」として認可を歓迎した。

しかし、遺伝子組み換え食品は人体や環境に悪影響を与えるとしてきた環境保護団体は、人工的に生み出されたサケを小説や映画に登場する怪物フランケンシュタインになぞらえ、「消費者はフランケン・フィッシュを望んでいない」などと批判している。

ロイター通信によると、米小売り大手ターゲットは「現時点では扱いは検討していない」と表明。他の小売りチェーンからも取り扱いに否定的な見方が出ており、遺伝子組み換えサケが一気に普及するかどうかは不透明だ。

動物への遺伝子組み換えがついに始まったんだという小さな恐怖感を感じた。まだ米だけでの認可だが、日本に上陸するのも時間の問題だと思う。どの食品に対しても言えることだが、メリットやデメリットをきちんと理解し、その上で購入することが今後消費者には必要にかつ重要になるのではないかと感じた。